

土佐の魚「チンピラ？」 ～土佐の魚の呼び名（地方名）はいろいろ～



高知市丸の内
高知県海洋局
発行人 久保田 寿一
編集人 海洋企画課
定 価 無料



各地域でのカツオの呼び名

県内	土佐清水伊佐	チンピラ(幼魚)
	室戸等	シンマエ(新前、幼魚)
	県内一円	シマキリ(縞切り、小型魚)
	大月町一切	ナエクバリ(小型魚) ※田に苗を配る(田植え)時期に釣れるため
県外	東北・北海道	マンダラ
	山 陰	タテマダラ ※魚は頭から尾鰭方向が縦
	沖 縄	カチュー、アヤカチュー
国外	英 国	ポニート
	米 国	スキップジャック
	中 国	鯉、正鯉

■まずはカツオから
以前にもご紹介しましたが、カツオは千年以上も前からその乾物が朝廷や大神宮に献納されるなど、古くから日本人に愛用されてきました。
語源としては、古代、魚の素干し品を「堅魚(かたうお)」と呼んでおり、これが縮まってカツオとなり、代表格の「カツオの素干し品」の名称となりました。これが、原魚の名称となり、「ワラカツオ」などとも呼びます。

「鯉」という漢字も創り出されたとされています。
県内では、30センチ級以下の幼魚をマグロ類の幼魚などと総称して一般に「シンコン」「シンマエ」と呼びます。
また、1キロほどになると体側の縦縞が鮮明になるため県内一円で「シマキリ」と呼びますが、土佐清水近辺では麦を取獲し麦藁を焼く頃に獲れるため「ムギキ」とも呼びます。

土佐弁は、地理的に遠い割には関西弁の影響を強く受けていることや、英語のように過去進行形と過去完了形が表現できることなどからも、ユニークな存在として知られています。
そんな土佐弁の中でも、本県では古くから各地域で漁業が盛んであったことから、魚の名前の呼び方も多種多様で、同じ魚でも色んな呼び方があったり、その由来に面白いエピソードがあるなど、漁村地域の文化としても興味深いものがあります。
今回は、県内各地の魚の独特な呼び方(魚名)や、これにまつわる様々な話題についてご紹介します。



幻の魚アカメ

体型を表したものと
して、マルソウダガツオ、
県内一般に言うメジカ
があります。円筒形に
近い体型から「ロソク
ク」、(ロソクメジカ)
などと呼ばれます。
また、宮崎県と高知
県にしか生息しない幻
の魚とも言われるアカ
メは、厚い鱗が蓑状に
重なり合うため、県内
各地で「ミノウオ(イ
オ)」と呼ばれています。



不味のためネコマタギとも呼ばれるシイラ。料理法によっては美味です！

マルソウダガツオ(メジカ)

■地方名の語源
魚の呼び名には、意味が不明のものが多い一方、その体形や習性などにとどまらず、人間生活との関連などが語源となるものもあります。
まず、魚の習性を表したものである、シイラがあります。
シイラは大きな群れで泳ぐので、「トローヤク(十百)」、「マンビキ(万匹)」、「クマビキ(九万匹)」などとも呼ばれます。

漁協合併を推進しましょう
● 購買は漁協を利用しましょう
● 預金、公共料金は信漁連へ

■これも漁村文化
ご紹介した以外にも、面白いエピソードなどを持つ魚が数多くあります。漁業者の皆さん！漁村文化の一つとして情報発信してみたいかが。



ロッキードP-38



イトマキエイ

■マンタ飛来？
第二次大戦中、米軍の空襲の前には通称ロッキードと呼ばれた双胴の偵察機が必ず飛来していたそうですが、イトマキエイ(通称マンタ)の一对の頭鰭のある形が、この飛行機を連想させるとして、清水などでは「ロッキード」とも呼ばれています。

人の感情を表したものととしては、アマダイがあります。アマダイは基本的には高級魚ですが、小型のものは商品価値が乏しいため、釣り上げた時に腹立たしく、蹴飛ばしたいという気持ちから「ケタグリ(蹴たぐり、土佐市宇佐)」、「チキビタ(泣きびた、高知市御置瀬)」と呼ばれます。



アマダイ

漁業経営のことなら、今すぐお電話を！

専門アドバイザーが、漁業経営、流通改善について無料でご相談に応じます。まずはお電話を！



● 漁業経営指導協会 tel 088-825-3980
● 上原アドバイザー tel 090-1570-4904

【編集後記】
子育ての本を読むと正常な発育過程で誰でも通過するらしいのは辟易している。スキンシップをはかろうと近づく「おとう、キモイ！やめろや！」もっと悪いのはおじいちゃん呼び方。さすがに「おい、タモツ！」はないでしょう(;>_<)

【コラム】
「先達の偉業」
今回の魚の地方名の内容は、岡林正十郎氏著「高知の魚名集」から多くを引用させていただいた。この本は本県における魚の地方名を知るほとんど唯一の文献であり、我々水産技術職員の仕事の上で欠かすことの出来ないバイブルとも言える名著である。岡林氏は我々の先輩であり、引退されて20年以上経った現在でもなお、新たな本を執筆中であるとのこと。その体力は勿論のこと情熱には頭が下がる。先輩の偉業を目標に日々我々は自らを戒めるべき